

2021年3月期 第2四半期決算
決算説明資料

2020年10月28日

化学で答を出す。

株式会社 トクヤマ



2021年3月期 第2四半期決算のポイント

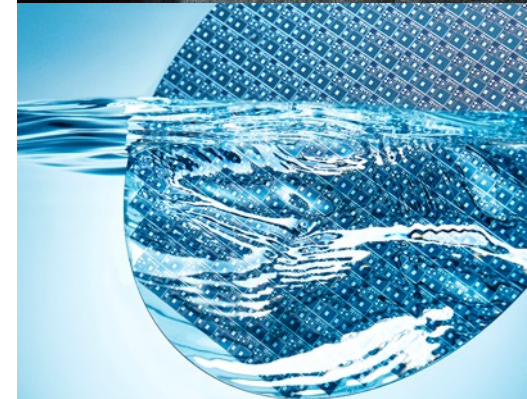
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により対前年同期比で減収減益
- 台湾の高純度IPA合弁会社設立など、次期中期経営計画に向け成長戦略を着実に実行
- グループ経営の強化のため資本政策の見直しを進め、成長戦略を支える基盤を強化
- サン・トックスの下期からの連結除外などを考慮し通期業績予想を修正

CONTENTS

- ① 2021年3月期 第2四半期決算
- ② 2021年3月期 予想
- ③ トピックス
- ④ 補足資料

① 2021年3月期 第2四半期決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高／営業利益
3. 営業利益増減分析（要因別）
4. セグメント別売上高／営業利益増減分析



1. 決算概要

(億円)

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	1,527	1,432	△94	△6	苛性ソーダの国内販売数量減少 石化製品の販売価格軟調 歯科器材等の輸出数量減少
営業利益	146	129	△16	△11	苛性ソーダの国内販売数量減少 歯科器材等の輸出数量減少
経常利益	136	124	△11	△8	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 四半期純利益	104	99	△4	△4	経常利益の減少
1株当たり 四半期純利益 (円)	149.75	143.90	-	-	-
為替 (円/\$)	109	107	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kl)	42,700	27,600	-	-	-

1. 決算概要

(億円)

	2020年3月末	2020年9月末	増 減	主要な変動要因
総資産	3,834	3,793	△41	受取手形及び売掛金の減少
自己資本	1,688	1,778	+89	親会社株主に帰属する 四半期純利益の積み上げ
自己資本比率	44.0%	46.9%	+2.8ポイント	-
有利子負債	1,163	1,103	△60	長期借入金の減少
D/Eレシオ	0.69	0.62	△0.07	-
ネットD/Eレシオ*	0.21	0.16	△0.05	-
1株当たり純資産 (円)	2,431.21	2,560.17	-	-

*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

2. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

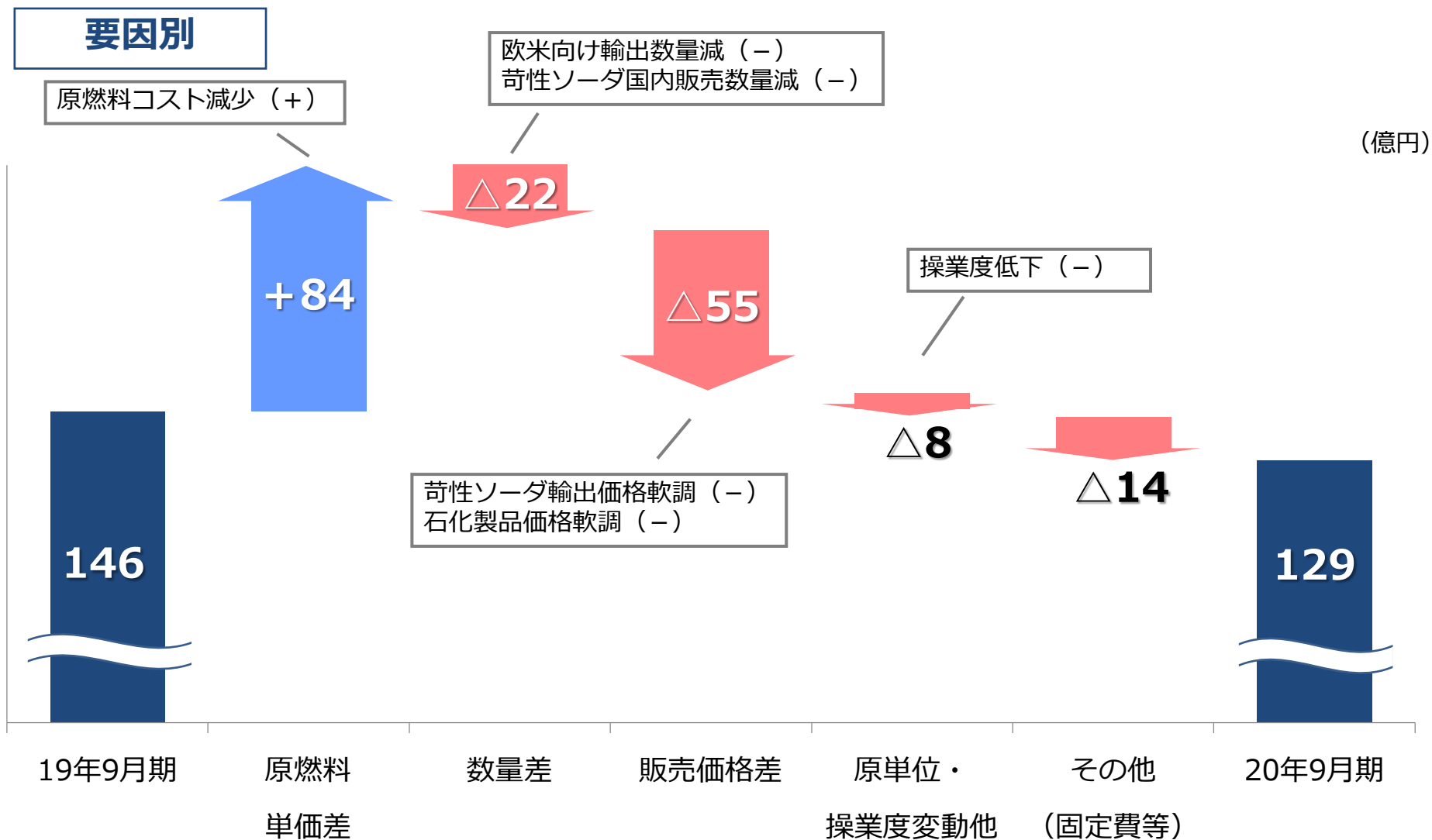
(億円)

	2020年3月期 第2四半期		2021年3月期 第2四半期		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	463	75	385	53	△78	△17	△21	△28
特殊品	246	28	260	27	+14	+6	△0	△2
セメント	427	11	427	23	+0	+0	+11	+97
ライアムティ-	277	15	249	8	△27	△10	△7	△47
その他	322	24	277	28	△45	△14	+4	+17
計	1,736	155	1,599	141	△137	△8	△13	△9
セグメント間 消去・全社費用	△209	△9	△166	△12	+42	-	△2	-
連結決算	1,527	146	1,432	129	△94	△6	△16	△11

(注) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

3. 営業利益増減分析

(前年同期比)



4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

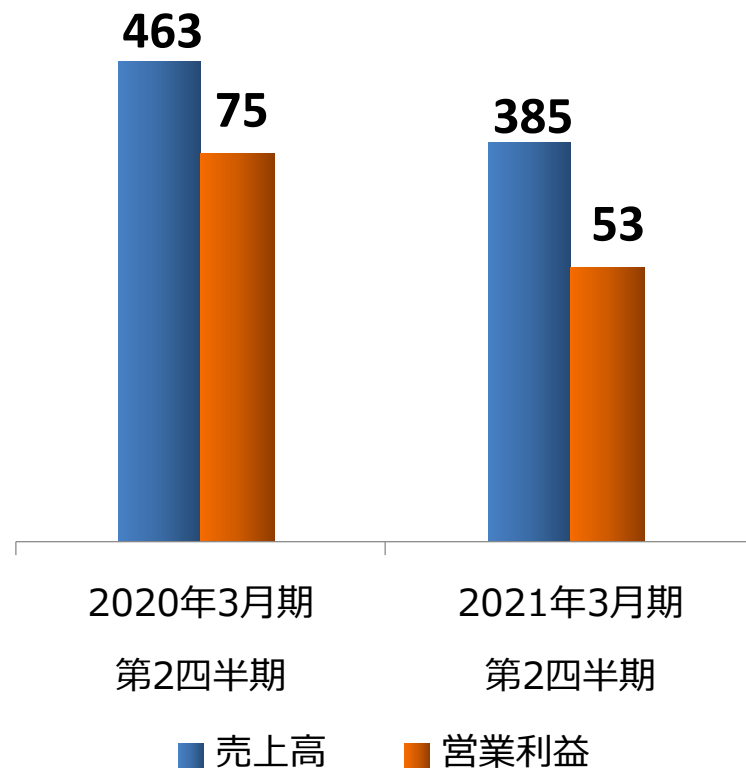
(前年同期比)

化成品

減収減益

定性情報

(億円)



(苛性ソーダ)

- ・コロナ影響で販売数量が減少したこと、及び海外市況が下落したことにより減益

(塩ビモノマー)

- ・国産ナフサの価格下落による製造コストの低減はあったものの、コロナ影響で海外市況が下落したことにより減益

(塩ビ樹脂)

- ・海外での需要が堅調だったこと、及び原料価格と販売価格のスプレッドの維持に努めたことにより前年同期並みの業績

(ソーダ灰)

- ・コロナ影響で国内の販売数量が減少し減益

4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

特殊品

増収減益

定性情報

(億円)

(半導体向け多結晶シリコン)

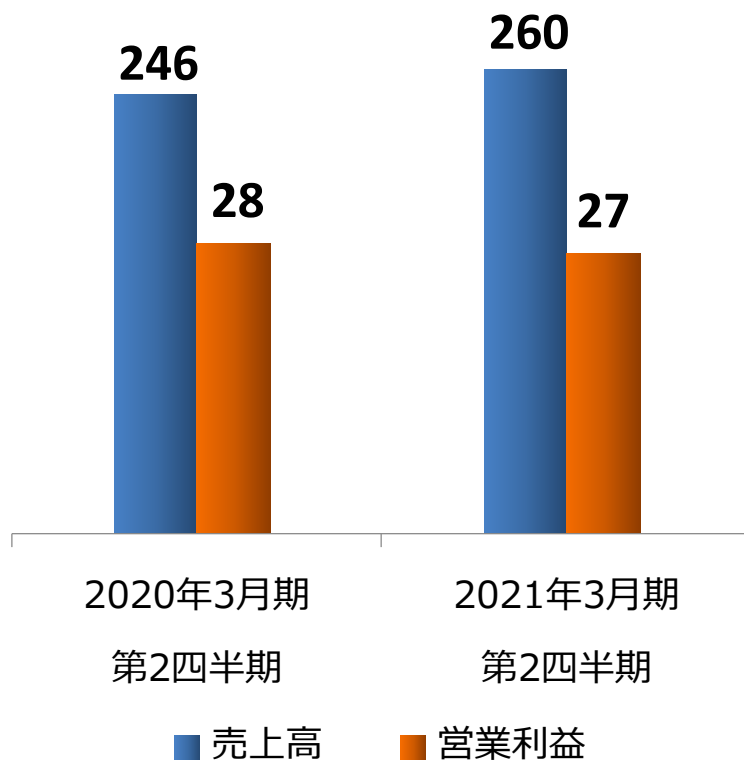
- ・ 5Gの導入やリモートワークの増加を背景に販売が堅調に推移し、前年同期並みの業績

(電子工業用高純度薬品)

- ・ 海外向けを中心として販売数量が増加し増益

(乾式シリカ)

- ・ コロナ影響で販売数量が減少し減益



4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

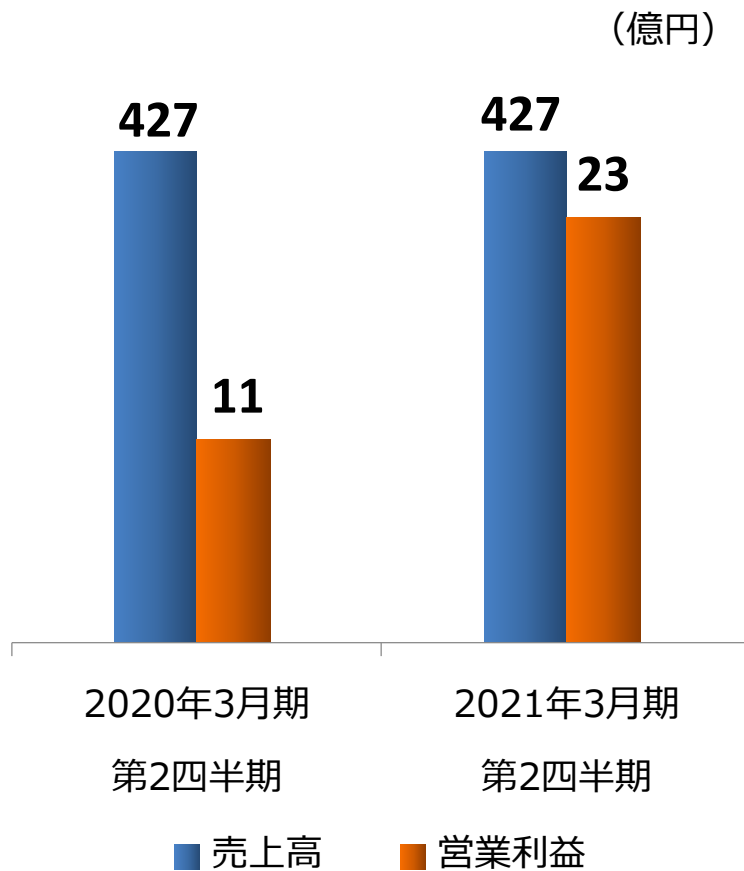
セメント

増収増益

定性情報

(セメント)

- ・コロナの国内出荷への影響が限定的だったこと、及び原料価格の下落で製造コストが低減したことにより増益



4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

ライフ アメニティー

減収減益

定性情報

(億円)

(プラスチックレンズ関連材料)

- ・コロナ影響でメガネレンズ用フォトクロミック材料の欧米向け輸出数量が減少し減益

(微多孔質フィルム)

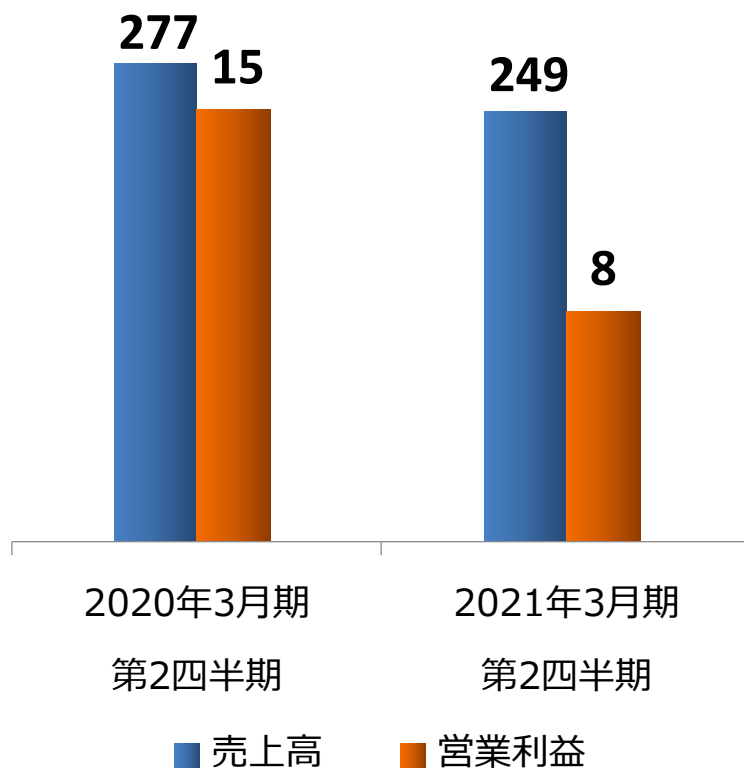
- ・紙おむつなどのサニタリー用品向けの需要が堅調に推移し増益

(ポリオレフィンフィルム)

- ・販売数量は軟調に推移したものの、原料価格と販売価格のスプレッドを改善できたことにより増益

(歯科器材)

- ・コロナ影響で欧米向け輸出数量が減少し減益



② 2021年3月期 予想

1. 業績予想修正
2. セグメント別業績予想修正
3. 配当予想修正



1. 業績予想修正

'20/5/15公表値から修正

(億円)

	2021年3月期予想 (2020/5/15公表)	2021年3月期予想 (2020/10/28修正)	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,100	3,000	△100	△3	サン・トックス連結除外
営業利益	280	280	-	-	-
経常利益	280	280	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	220	220	-	-	-
1株当たり 当期純利益 (円)	316.75	316.75	-	-	-
為替 (円/\$)	110	上期実績 : 107	-	-	-
		下期前提 : 105			
国産ナフサ価格 (円/kl)	43,000	上期実績 : 27,600	-	-	-
		下期前提 : 32,500			

サン・トックスの連結除外に伴い通期の連結売上高が減少する見込みであることや、最近の業績動向等を踏まえ、2020年5月15日に公表した数値を修正する

2. セグメント別業績予想修正

'20/5/15公表値から修正

(億円)

	2021年3月期予想 (2020/5/15公表)		2021年3月期予想 (2020/10/28修正)		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	870	130	870	120	-	-	△10	△8
特殊品	610	75	610	75	-	-	-	-
セメント	860	35	860	45	-	-	+10	+29
ライアメティー	580	30	480	25	△100	△17	△5	△17
その他	480	40	480	45	-	-	+5	+13
計	3,400	310	3,300	310	△100	△3	-	-
セグメント間 消去・全社費用	△300	△30	△300	△30	-	-	-	-
連結決算	3,100	280	3,000	280	△100	△3	-	-

(注) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

営業利益以下の連結業績予想合計は据え置くものの、セグメント別内訳を見直し

3. 配当予想修正

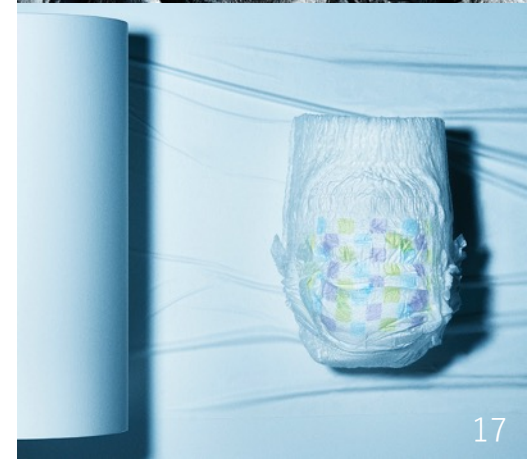
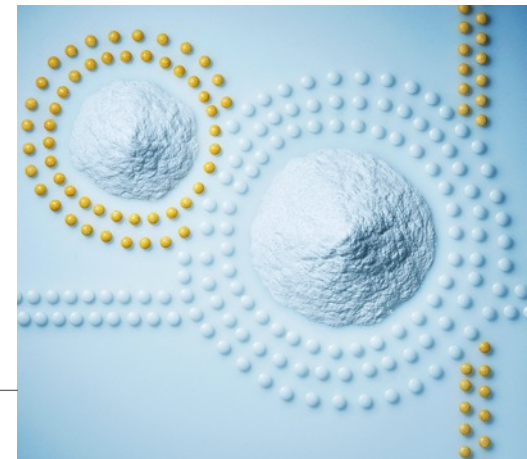
'20/5/15公表値から修正

コロナ影響による不透明感を払拭できないことから未定としていた期末配当予想につき、配当方針及び今般の財務状況等を総合的に勘案し、前期同様35円00銭とする

	2021年3月期予想 (2020/5/15公表)	2021年3月期予想 (2020/10/28修正)	増 減	(参考) 2020年3月期実績
中間配当	35円00銭	35円00銭	-	35円00銭
期末配当	未定	35円00銭	-	35円00銭
合計	未定	70円00銭	-	70円00銭

③ トピックス

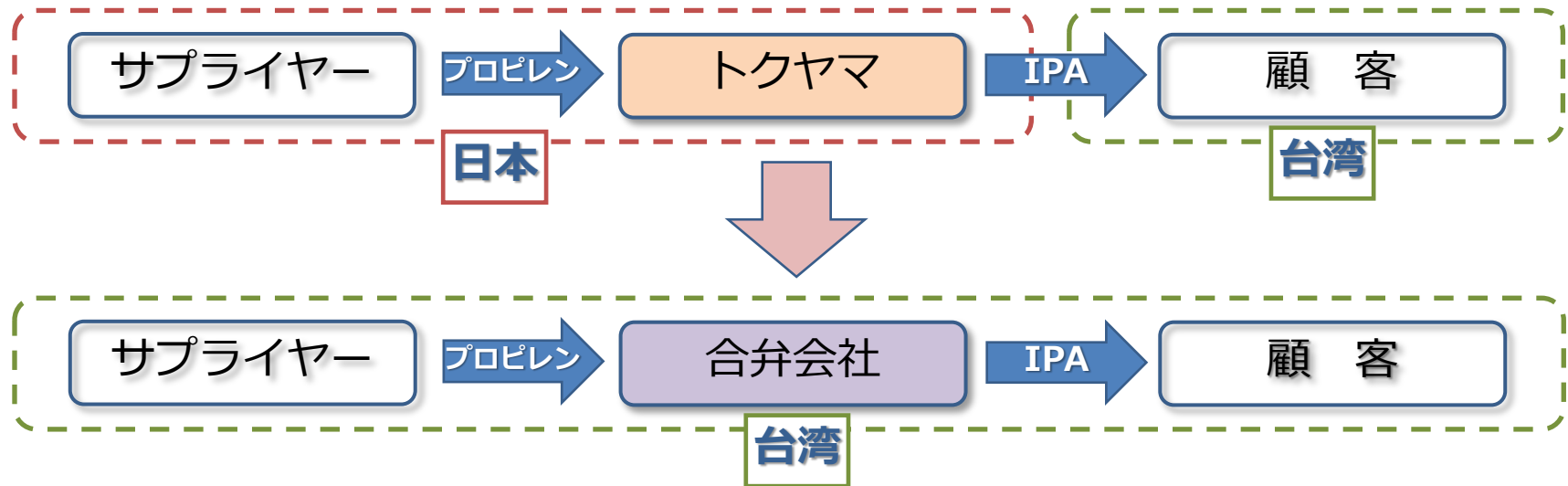
1. ICT関連事業の進捗
2. ヘルスケア関連事業の進捗
3. グループ経営について
4. CO₂排出量削減の取り組み
5. 次期中期経営計画の策定



③ トピックス

1. ICT関連事業の進捗

・ 台湾のIPA製造販売の合併会社設立



- 台湾塑膠工業股份有限公司（Formosa Plastics Corporation）と50：50の出資比率で、台湾で電子工業用イソプロピルアルコール（IPA）の製造販売を行う合併会社である台塑徳山精密化学股份有限公司（Formosa Tokuyama Advanced Chemicals Co., Ltd.）を設立
- サプライチェーンを台湾内で完結させることで、オペレーションを効率化し、増大する将来需要に柔軟に対応
- 2022年より供給開始予定

2. ヘルスケア関連事業の進捗

• エイアンドティーの完全子会社化

- ▶ 現在持株比率40.2%のエイアンドティーを、来年2月1日実施予定の株式交換により完全子会社化
- ▶ トクヤマの持つ化学合成の技術で診断試薬開発をより一層強化し、診断システム事業を拡大

• 歯科器材

- ▶ 充填材の新製品であるオムニクロマ®を、北米、欧州に続いて日本でも11月に上市
- ▶ 今後の事業拡大を見込み、鹿島工場での生産設備を拡充中



3. グループ経営について

・サン・トックスの株式譲渡

- レンゴー株式会社への株式譲渡により、サン・トックスへのトクヤマ出資比率が80%から34%へ減少
- 軟包装事業に注力するレンゴーが今後はサン・トックスのプラスチックフィルム事業の強化に努め、トクヤマは製造面での支援を継続
- トクヤマグループにおいては事業の選択と集中を進め、注力分野であるICT、ヘルスケア、環境分野に経営資源を集中投下

4. CO₂排出量削減の取り組み

- 現在、2030年度までにCO₂排出量をBAU比（基準年：2013年）で15%削減する目標を掲げているが、現下の石炭火力を取り巻く厳しい状況を鑑み、新たな目標とその施策を次期中期経営計画の中で策定中
- 検討項目
 - エネルギーミックス
 - 具体策（短・中期的、長期的）の検討
 - バイオマス燃料の使用拡大
 - PKS調達量の拡大とコスト削減の取組
 - 新規バイオマス燃料の開発
 - CCU
 - 回収CO₂の用途探索
 - 水素
 - 再エネ水素開発
 - 周南コンビナート連携（低炭素コンビナート構想）

5. 次期中期経営計画の策定

- 以下を基本として次期中期経営計画を策定中
 - CO₂排出抑制に資する新技術の創出により、環境分野を事業の柱に
 - 化成品で稼いだキャッシュで環境・電子・健康事業を推進し、事業ポートフォリオを最適化
 - 特有技術とマーケティングの強化で、海外売上高比率を向上
 - IoT、DXを活用して生産性向上
 - マテリアリティの解決

TOKUYAMA



④ 補足資料

1. 営業利益増減分析（セグメント別）
2. 連結財務諸表（要約）
3. 営業外損益・特別損益・金融収支
4. 投資実績・計画
5. 業績推移
6. 設備投資額・減価償却費推移
7. 有利子負債残高推移
8. フリー・キャッシュフロー推移

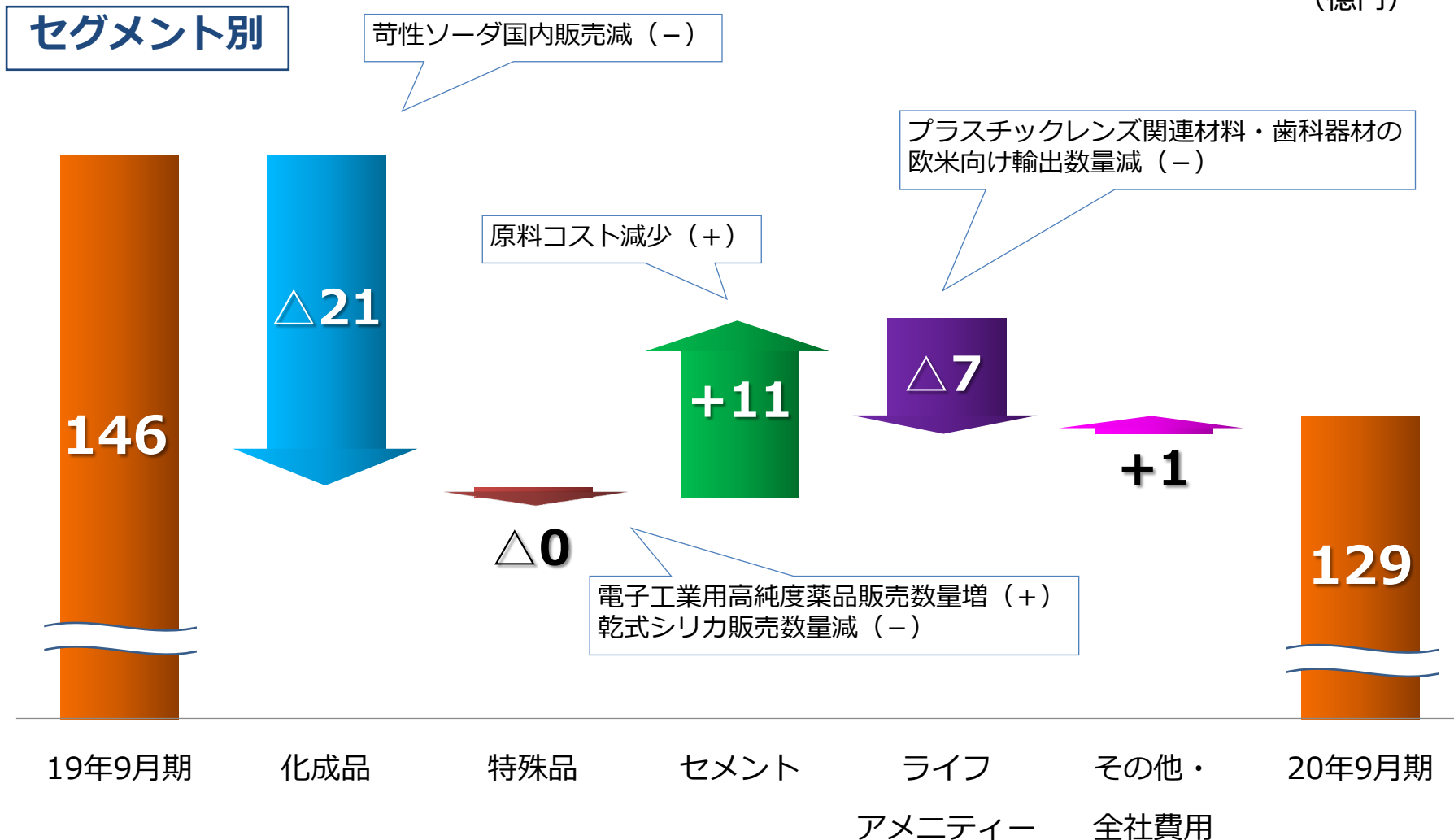


④ 補足資料

1. 営業利益増減分析

(前年同期比)

(億円)



④ 補足資料

2. 連結財務諸表 (要約)

損益計算書

(億円)

	2020年 3月期 第2四半期	2021年 3月期 第2四半期	増 減	
			金額	%
売上高	1,527	1,432	△94	△6
売上原価	1,062	987	+74	+7
販管費	318	315	+3	+1
営業利益	146	129	△16	△11
営業外損益	△9	△4	+5	-
経常利益	136	124	△11	△8
特別損益	△2	△3	△1	-
税前三半期純利益	134	121	△12	△10
法人税等	26	17	+9	+34
非支配株主利益	3	3	△0	△10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	104	99	△4	△4

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

2. 連結財務諸表 (要約)

貸借対照表

(億円)

	2020年3月末	2020年9月末	増減	
			金額	%
資産合計	3,834	3,793	△41	△1
流動資産	2,038	1,972	△66	△3
有形固定資産	1,231	1,229	△2	△0
無形固定資産	16	16	△0	△0
投資その他の資産	547	574	+26	+5

	2020年3月末	2020年9月末	増減	
			金額	%
負債合計	2,030	1,889	△140	△7
流動負債	952	863	△88	△9
固定負債	1,077	1,025	△51	△5
純資産合計	1,804	1,903	+99	+6

3. 営業外損益・特別損益・金融収支

連結（前年同期比）

（億円）

		2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	差損益
営業外収益	受取利息・配当金	2	3	+0
	その他	22	18	△3
	計	25	21	△3
営業外費用	支払利息	8	7	+0
	その他	26	18	+8
	計	35	26	+9
営業外損益		△9	△4	+5

特別利益	1	17	+16
特別損失	3	20	△17
特別損益	△2	△3	△1

金融収支	△5	△4	+0
------	----	----	----

（注）差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

4. 投資実績・計画

連 結 (億円)

	2020年3月期		2021年3月期		増 減	
	上期 実績	通期 実績	上期 実績	通期 予想	上期	通期
設備投資額	105	237	88	307	△16	+70
減価償却費	76	161	81	172	+5	+11
研究開発費	42	91	50	106	+7	+14

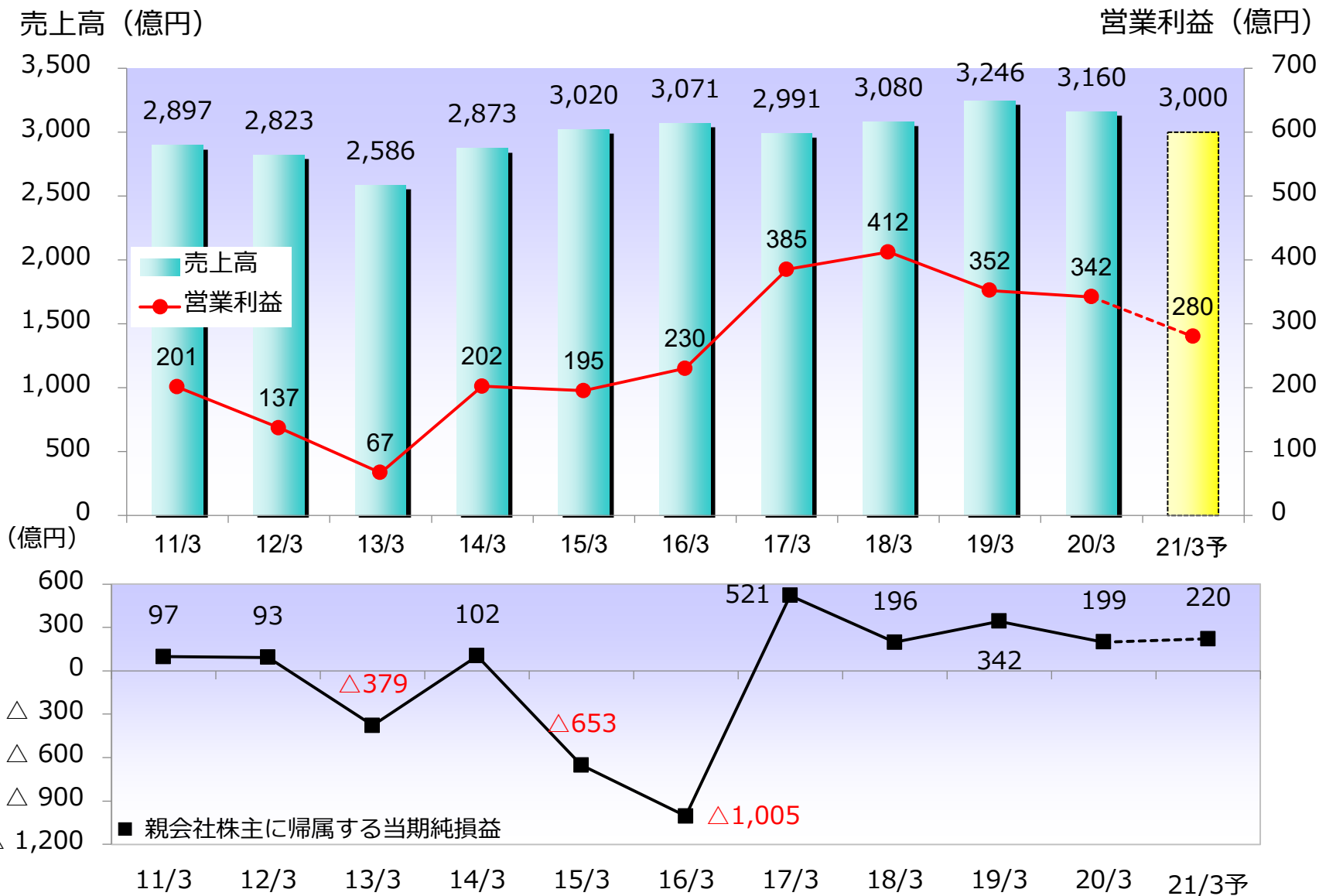
• 主な投資案件

	2020年3月期	2021年3月期
	窒化アルミ粉末増産	半導体関連製品増産・品質向上
	TMAH増強	ヘルスケア関連製品増産
	(徳山化工) 半導体用薬液出荷設備	新規放熱材開発
	港湾インフラ整備	港湾インフラ整備

※ 将来の需要回復を見据え、基本的な投資計画の変更は行わないものの、製品の需要動向を見ながら投資スケジュールなど臨機応変に対応

5. 業績推移

通 期

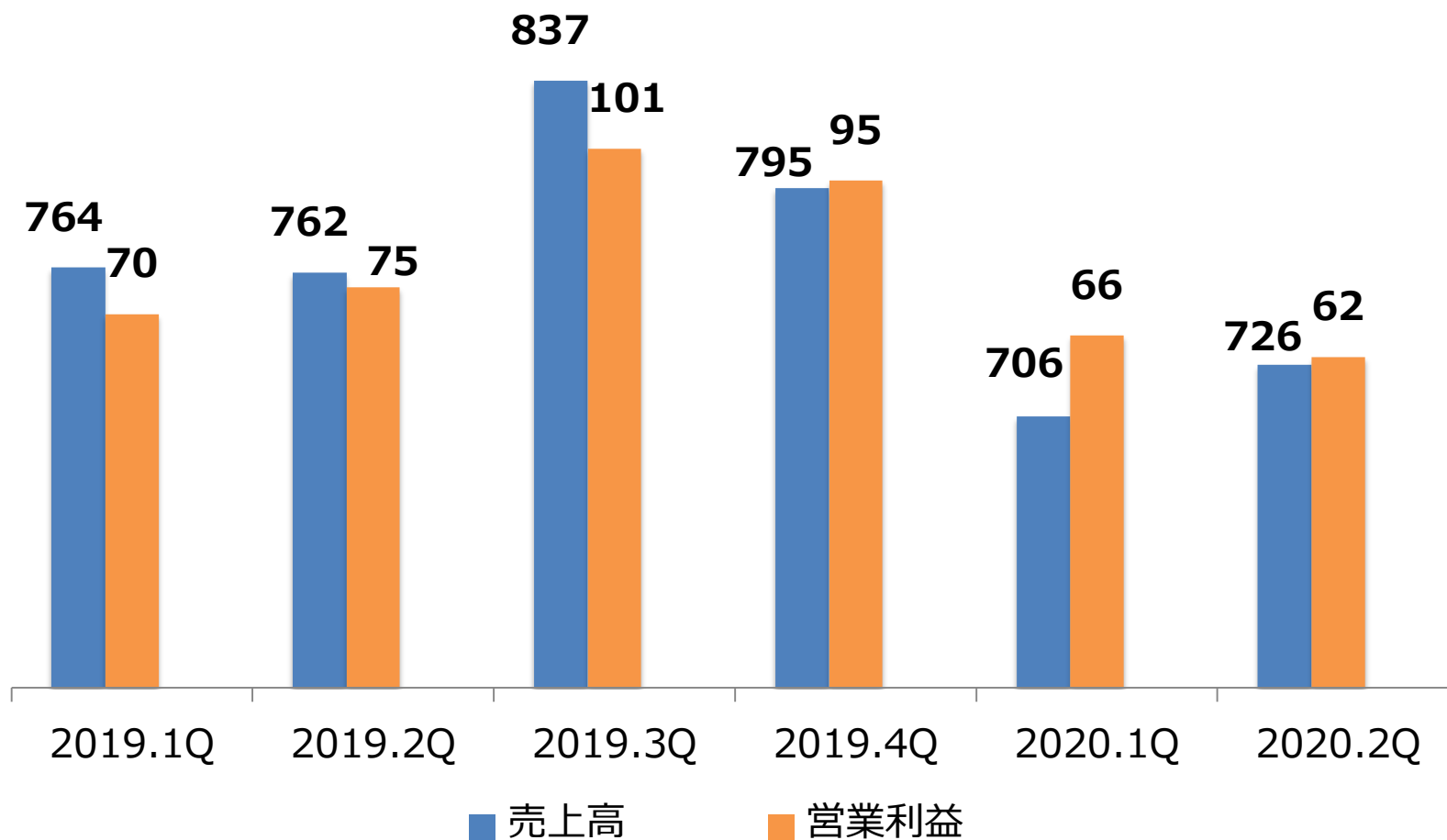


5. 業績推移

連結

四半期

(億円)

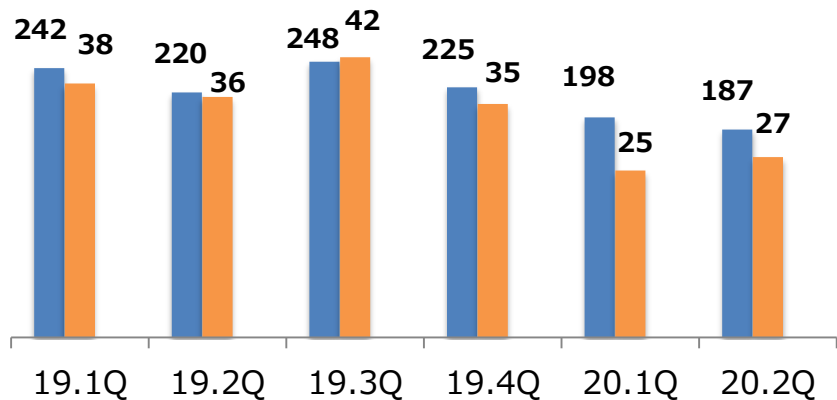


5. 業績推移

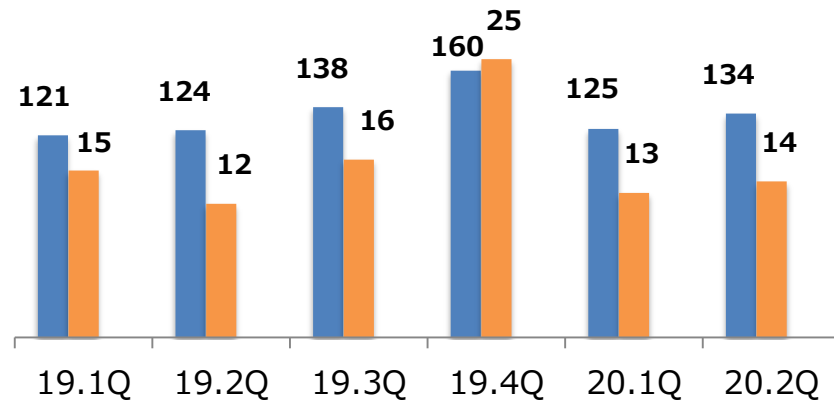
四 半 期

(億円)

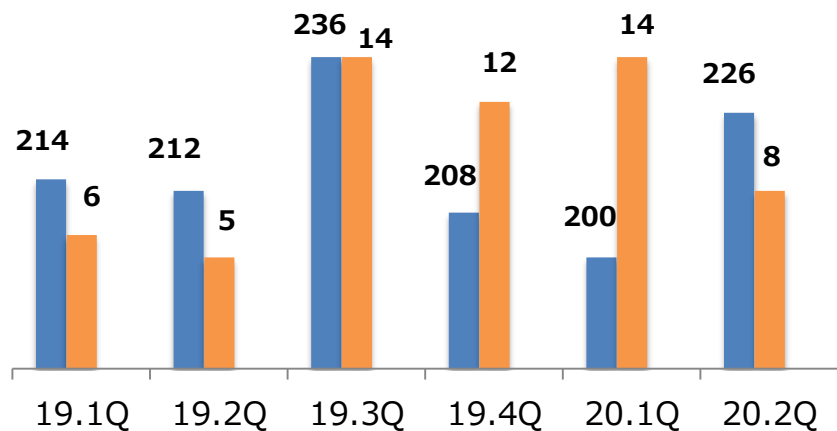
化粧品



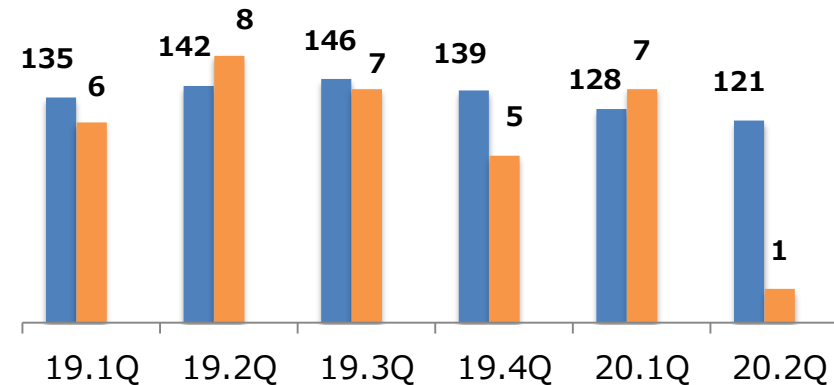
特殊品



セメント

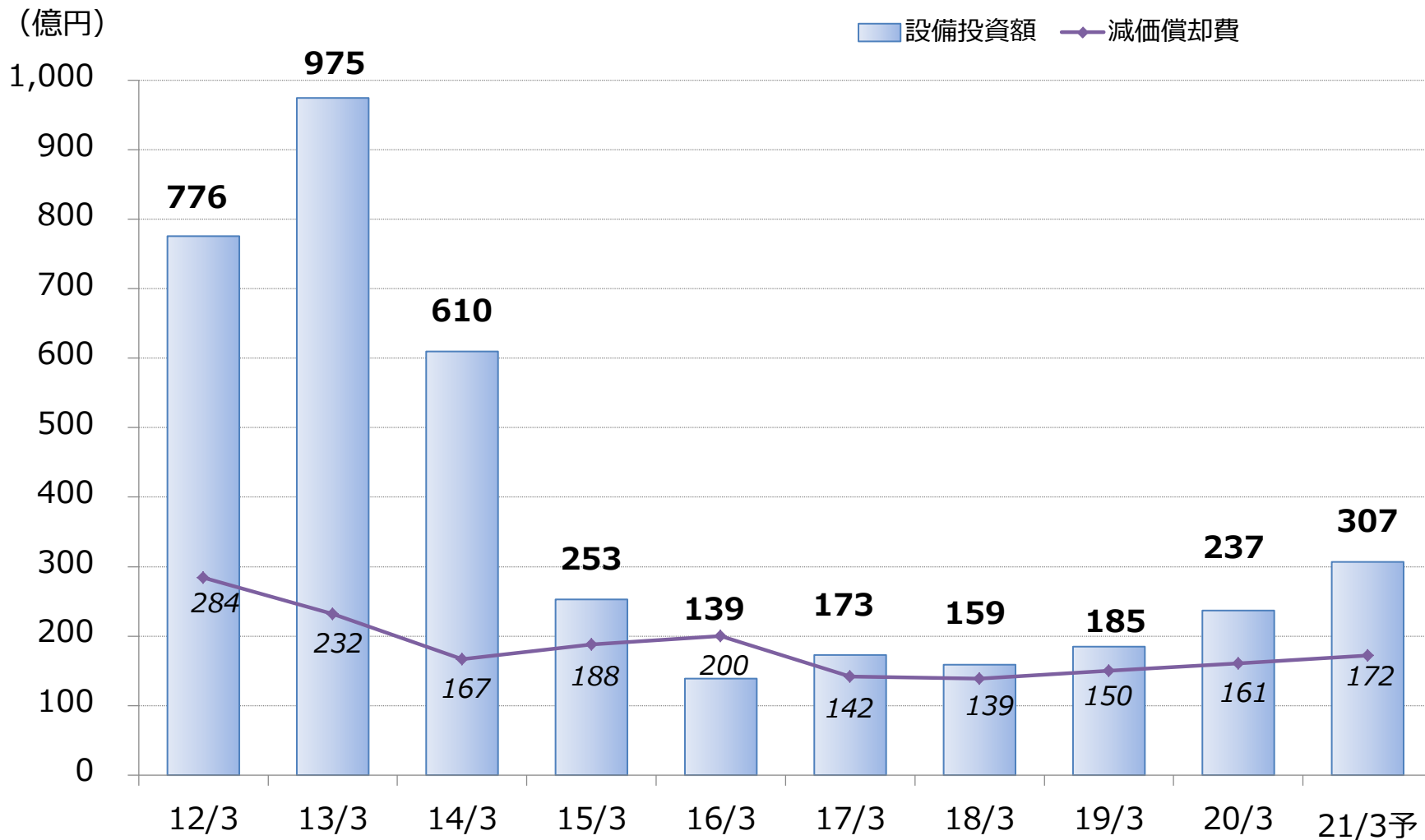


ライフアメニティー



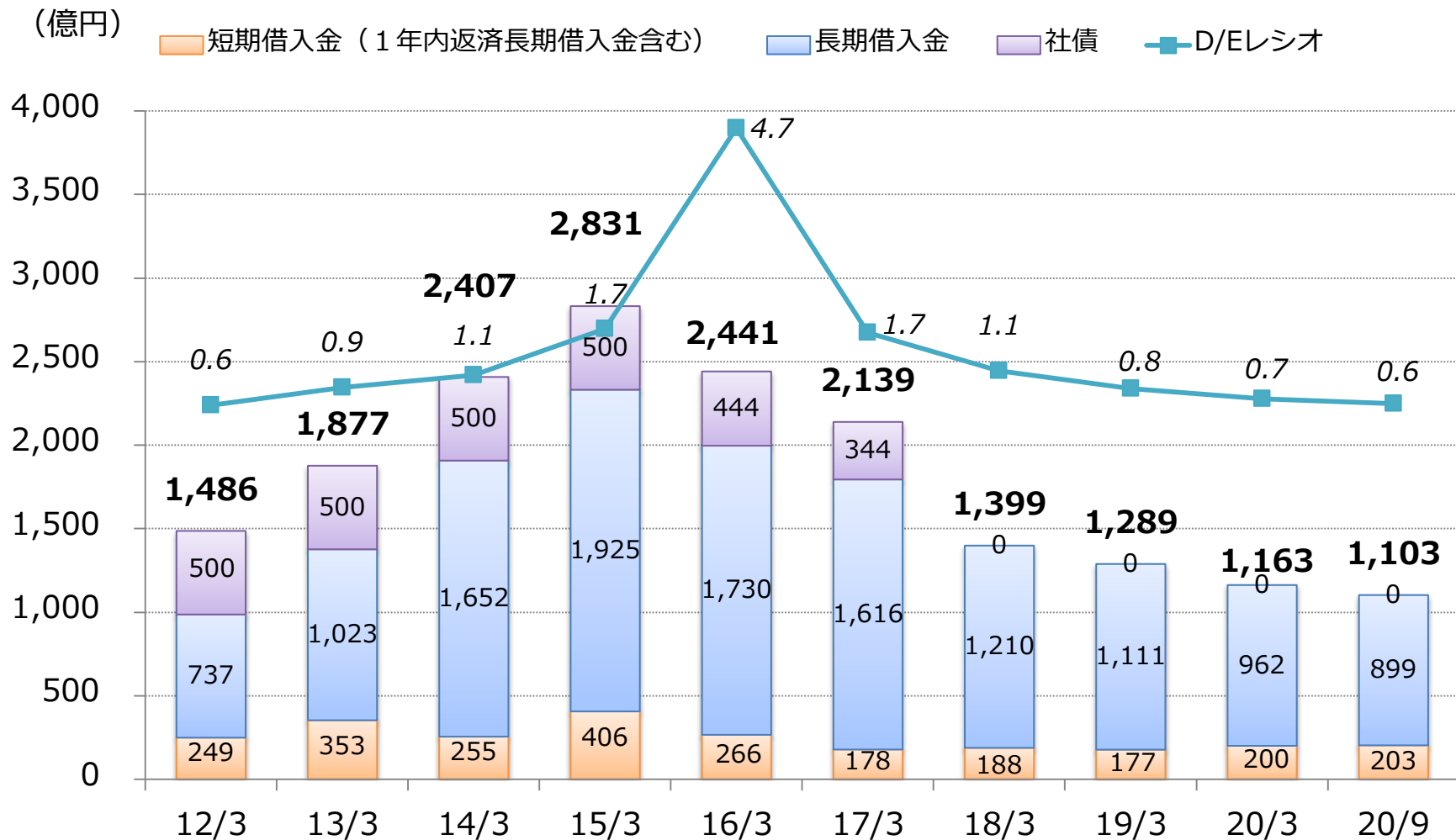
■ 売上高 ■ 営業利益

6. 設備投資額・減価償却費推移

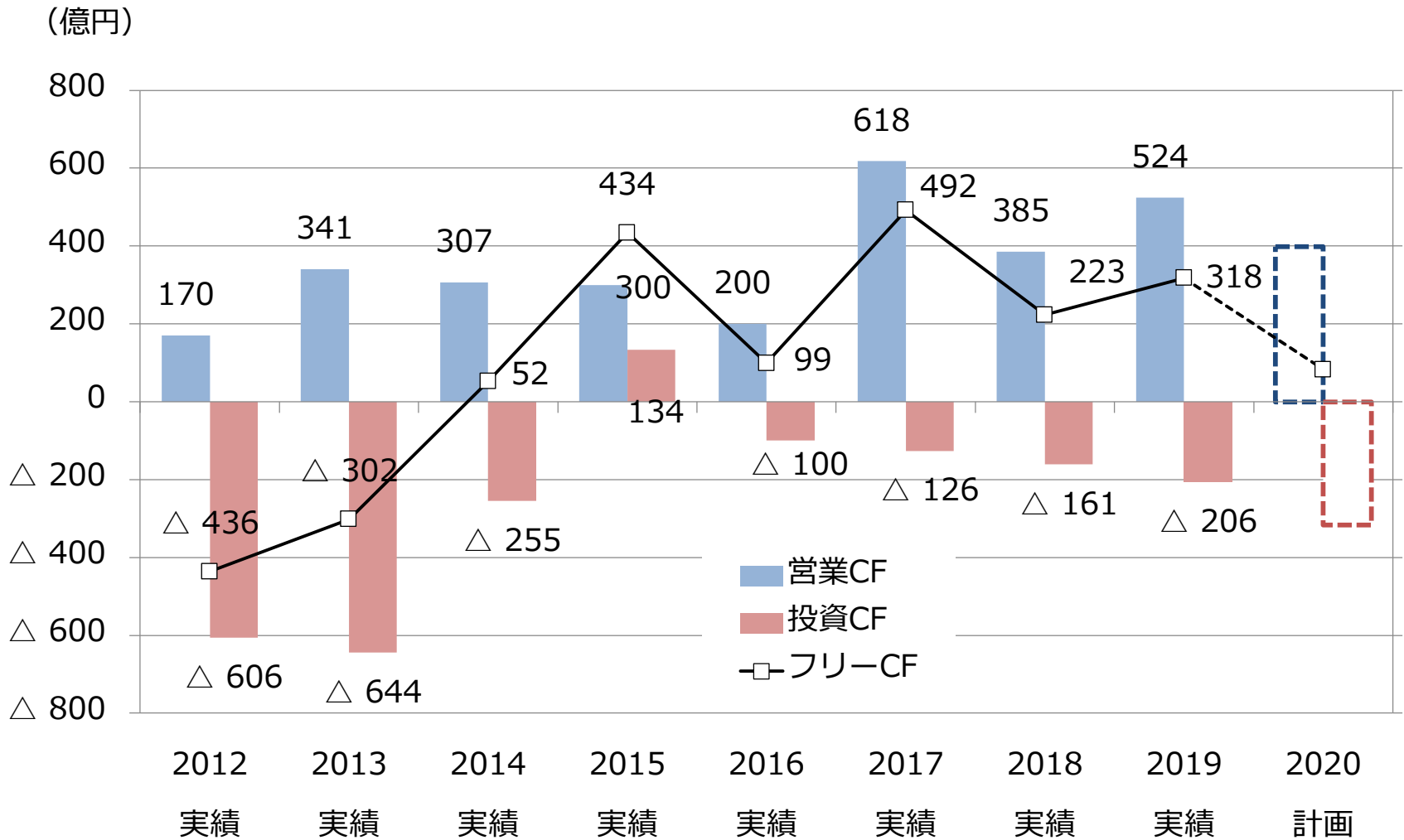


7. 有利子負債残高推移

連 結



8. フリー・キャッシュフロー推移



本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

TOKUYAMA

